令和6年度　自己点検・自己評価　　学校運営評価

学則　第4条　本校は、その教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、
本校における教育活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

目標　教育活動やその他の学校運営について、達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・
公表し、学校としての組織的・継続的な改善を図る。

評価期間：　令和6年4月～令和7年3月の1年間

実施者：　教職員17名

評価項目：　120項目

評価尺度：　当てはまる　3
やや当てはまる　2
当てはまらない　1

表1　令和6・5年度の評価平均比較

カテゴリー		令和6年度	令和5年度
Ⅰ	教育理念・教育目的	3.0	2.9
Ⅱ	教育目標	2.9	2.9
Ⅲ	教育課程経営	2.8	2.8
Ⅳ	授業・学習・評価	2.9	2.8
Ⅴ	経営・管理過程	2.8	2.8
Ⅵ	入学	2.9	3.0
Ⅶ	卒業・就職・進学	2.6	2.3
Ⅷ	地域社会・国際交流	2.6	2.5
Ⅸ	研究	2.5	2.4

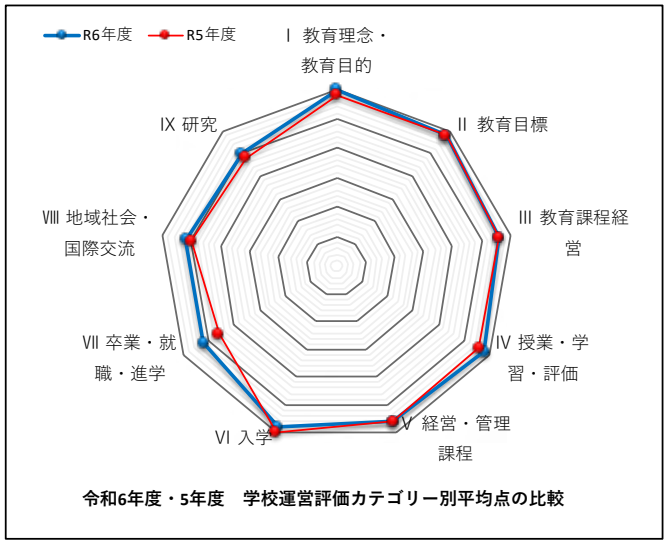


図1：令和6年度・5年度　学校運営評価カテゴリー別平均点の比較

結果

1．カテゴリー　表1、図1参照

平均点がR5年度より上がったカテゴリーは5カテゴリー

平均点がR5年度より下がったカテゴリーは1カテゴリー

2．項目では　（R5年度と平均点を比較し）

上昇した項目	120項目中71項目
同じ項目	120項目中39項目
低下した項目	120項目中10項目

結果及び分析

	大項目	結　果　及　び　分　析
Ⅰ	教育理念・教育目的	・カテゴリー平均値はR5年度より0.1上昇した。 ・教育理念・教育目的が「卒業時に持つべき資質」と理解されている。また、「看護・看護基礎教育・学生観」についても学生便覧に記載されており、理解されている。
Ⅱ	教育目標	・カテゴリー平均値はR5年度と同様の2.9である。教育目標、シラバスや授業計画から理解されていると判断する。「卒業後の学習に繋がる目標を設定している」「卒業後の継続教育の考え方を示している」はそれぞれR5年度の2.7からR6年度は0.2上昇し2.9となった。卒業後の自己教育力育成という観点から、教育理念や目的から降りてきている目標であるため、設定していることの理解がなされた。
Ⅲ	教育課程・経営	・カテゴリーの平均値はR5年度と同様の2.8だった。 ・R5年度よりそれぞれ0.1低下している項目が「教育課程の評価を組織的に修正」「単位の履修方法の明示」「単位認定のための評価基準と方法を明示」「単位互換が可能な体制」「専門性が発揮できる担当科目」の5項目である。今まで、シラバスにより「単位の履修方法の明示」「単位認定のための評価基準と方法を明示」してきた。R7年度より、学籍管理システム導入に伴い、シラバスがより確認が容易となる。 ・R5年度より上昇しているのは16項目あった。その中で0.3以上上昇している項目は「履修方法の柔軟な取入れ」「臨地実習施設の本校の教育理念、教育目標の理解」である。0.4の上昇は「実習施設からの学習支援の体制協力」である。R6年度は主な実習施設である、仙台徳洲会病院実習指導者との合同学習会を年2回開催し、共通理解を図った。また、R6年度より実習要綱を冊子化し、実習施設に配布したことは教授内容の確認や、細目にわたっての確認が容易となったことも要因としてあげられる。

Ⅳ	授業・学習・評価	・カテゴリーの平均値はR5年度と比較し、0.1ポイント上昇した。 ・ほとんどが0.1～0.3ポイント上昇している。授業展開の工夫、授業目標の評価、学習の支援は、より具体的で各教員が意識して取り組んでいると判断する。特に「学年に合った授業内容の設定」「他の授業内容との関連性が明確」「評価結果に基づき授業を改善」は0.2ポイント上昇している。「シラバスの提示や学習への指導が学習への動機づけとなる」は0.3ポイント上昇した。低下した項目はなかった。
Ⅴ	経営・管理課程	・カテゴリーの平均値はR5年度と同様だった。全42項目のうち上昇している項目が25項目、低下している項目は2項目だった。 ・0.1ポイント以上上昇は、「設置者の意思・指針」「組織体制」「財政基盤」「施設設備の整備」「学生生活への支援」「個人情報保護」「危機管理体制」に関しては概ね上昇している。R6年度は大規模改修工事を終了し「施設設備の整備」ができた。低下した2項目は「保護者への情報提供」「自己点検・自己評価結果の次年度への修正に機能している」でる。保護者への情報提供は学校からの情報発信としてHP更新回数が増えなかったことがあげられる。R7年度は学籍管理システムにおいて、学生への連絡事項が保護者も閲覧できるようにすることやInstagramの開設も検討していく。
Ⅵ	入学	・カテゴリーの平均値はR5年度と比較し、0.1低下している。低下しているのはこの項目だけである。 ・0.1ポイント上昇しているのは「入学者選抜が教育理念・目的と一貫性がある」「入学希望者の開拓」である。しかし、R6年度入学生は定員50名のところ46名だった。「選抜方法の妥当性」が評価されず、0.3ポイント低下した。R7年度はさらに、入試制度の変更を行い、定員確保を進めていきたい。
Ⅶ	卒業・就職・進学	・カテゴリーの平均値はR5年度から0.3ポイント上昇した。最も上昇した項目である。 ・R6年度初めて、R5年度卒業生を招き、情報交換を実施した。この項目は最も上昇率が高く0.6ポイント上昇している。 ・しかしまだ、卒業生の活動状況や就職先での評価把握は進んでいない。次年度の課題とする。
Ⅷ	地域社会・ 国際交流	・カテゴリーの平均値はR5年度と比較し、0.1上昇している。 ・0.1ポイント以上上昇しているのは「地域社会のニーズの把握」である。新カリキュラムにおいて「地域の実習」を実施し、地域との連携ができた。地域懇談会に出席していることからも理解されている。さらに、「海外からの留学生受入体制」「留学や海外において看護職に就くことを希望する学生に対しての支援体制」である。R7年度より国際交流・海外研修が始まることから、理解されていると考える。 ・0.1ポイント低いのは「看護教育活動を地域社会へ貢献している」の1項目である。地域の実習が始まってから、地域との連携ができ、市民センターとの共同や学生のボランティア参加が進んだことから理解を促していく。
Ⅸ	研究	・カテゴリーの平均値はR5年度から0.1上昇している。 ・0.3上昇しているのは「研究活動の文化的素地」である。反対に0.2ポイント低下しているのは「研究活動を助言・検討している体制」である。R6年度　徳洲会東北ブロック看護・介護研究発表会」にて発表できた。今後も発表の場をもち、継続していく。

評価

1 カテゴリーの平均値がR5年度より5カテゴリー上がった。下がったカテゴリーが1カテゴリーだった。
この結果から、学校運営は概ね理解が得れれている

2．課題と今後の方針

Ⅲ	教育課程・経営	・教育課程の理解…担当領域と他領域・基礎分野・専門基礎分野との関連性の明確化 ・教育課程の明示方法の徹底 ・教員による教育力UPの継続
Ⅴ	経営・管理課程	・保護者への情報提供と情報共有。学籍管理システムへのスムーズな移行。 ・Instagramの開設を検討。 ・自己点検・自己評価の結果（学校運営協議会や外部アンケート結果等の意見）を次年度に活かす。
Ⅵ	入学	入学生の定員確保 ・本校の魅力を発信、学生の学習環境のさらなる整備 ・入試制度の変更
Ⅶ	卒業・就職・進学	卒業生に関する活動状況の把握や統計分析し、分析結果の活用
Ⅷ	地域社会・ 国際交流	国際交流の一環である海外研修の安全な運営と学生・保護者への発信

令和6年度　学校関係者評価　保護者外部アンケート実施結果

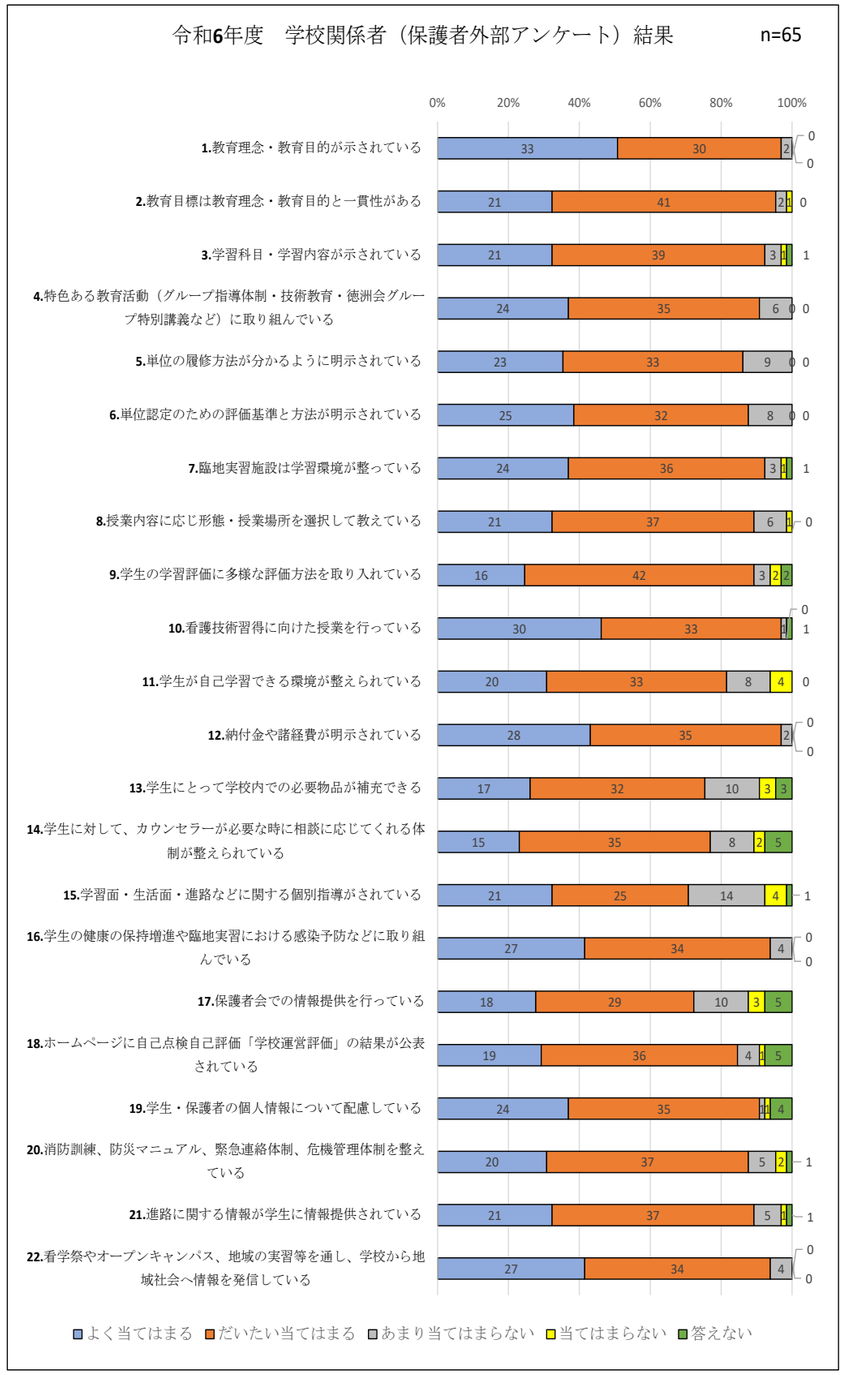
調査期間：令和7年1月17日～令和7年1月31日

調査対象者：全学生の保護者142名に配布

回収：

	1年生	2年生	3年生	合計
学生人数	45	49	48	142
依頼数	45	49	48	142
回収数	20	24	21	65
回収率	44.4%	49.0%	43.8%	45.8%

調査結果：



令和6年度学校関係者（外部アンケート）まとめ

項目	まとめ
1　教育理念・教育目的の明示	よく当てはまる・だいたい当てはまるが92.3～96.9％でした。受験生への相談会、オープンキャンパス、新入生保護者オリエンテーションや保護者会を通して、保護者のみな様にはご理解いただけた。
2　教育目標と教育理念・教育目的の一貫性	
3　学習科目・学習内容の明示	
4　特色ある教育活動に取り組み	よく当てはまる・だいたい当てはまるが90.8％でした。徳洲会グループの特徴である離島医療・看護やTMATの災害活動などの特別講義や災害看護の講義、太白区消防署との多数傷病者対応訓練、個別支援体制、看護技術支援において十分ご理解いただけた。
5　単位の履修方法が分かるように明示	よく当てはまる・だいたい当てはまるが86.2～87.7％でした。新入生保護者オリエンテーションを対面で実施し、資料を用いて詳しい説明を行いました。また、HPシラバスに詳細を掲示しており、理解は得られた。
6　単位認定のための評価基準と方法が明示	
7　臨地実習施設が充実	よく当てはまる・だいたい当てはまるが92.3％でした。仙台市近郊で臨地実習が行えること、学習環境が整っている臨地実習施設と連携を図ることで理解が得られた。
8　授業内容に応じ形態・授業場所の選択	よく当てはまる・だいたい当てはまるが同率、89.2％でした。シラバスをご覧いただくことでご理解いただいていると考えます。評価方法（筆記試験・レポート・実技試験・臨地実習など）が掲載されておりますので引き続き、ご確認をお願いいたします。
9　学習評価に多様な評価方法を取り入れ	
10　看護技術習得に向けた授業	よく当てはまる・だいたい当てはまるが96.9％と項目1と同率で最も高い値でした。看護技術指導に力を入れているのが教育の特徴でもあり、基礎看護学実習室のモデル人形が増え、カーテンや使用物品が新しくなりました。今後も学生が練習できる環境を整え、技術支援して参ります。
11　学生が自己学習できる環境整備	よく当てはまる・だいたい当てはまるが81.5％でした。今年度は学校の大規模改修工事の影響で図書室等の個別学習スペースが使用できず、ご負担をおかけいたしました。現在は学習スペースが拡充され、、1,2年生の講義室は新たに広い空間を確保できる講義室としました。学習環境は整いました。
12　納付金や諸経費の内容が明示	よく当てはまる・だいたい当てはまるが90％以上でした。学校案内や学生募集要項等、納付金の依頼文書においてご理解いただきました。
13　学生は学校内での必要物品の補充が可能	よく当てはまる・だいたい当てはまるが75.4％でした。現在は業者の飲食用の自販機のみとなっております。常に学校で必要物品が補充できる体制よりも、学生自身が計画的に必要な物品を準備しておくことも必要になるかと思います。この項目については引き続き検討してまいります。
14　カウンセラーが必要な時に相談に応じる体制	よく当てはまる・だいたい当てはまるが76.9％でした。カウンセラーは月1回学校に来ています。必要と考えられる学生には利用を勧めております。また「学生相談室だより」を用い、学生に利用を勧めております。
15　学習面・生活面・進路などに関する個別指導	よく当てはまる・だいたい当てはまるが70.8％と最も低い項目でした。本校の特徴の一つに個別指導がありますが、学校では学生自身が問題を解決できるように支援を行うことを基本としております。学生がどのような支援を求めているかを把握しながら、今後も一人ひとりにあった個別指導ができるよう学生・保護者と情報を共有して参りたいと考えます。
16　学生の健康の保持増進や臨地実習における感染予防の取組み	よく当てはまる・だいたい当てはまるが93.8％でした。コロナが5類に移行してからも、学生生活や臨地実習対応ではご理解いただけたと考えます。今後も健康診断の結果を踏まえた健康の保持増進の支援、小児感染症予防接種等の支援、感染対策に取組んで参ります。
17　保護者会での情報提供	よく当てはまる・だいたい当てはまるが72.3％と低い項目でした。令和6年度、保護者会出席者は１,２年生学生数94名に対し、23名（24.5％）でした。みな様に是非、出席いただきいただきたいと思います。
18　「学校運営評価」「学校関係者評価」の結果公表	よく当てはまる・だいたい当てはまるが84.6％でした。HPに改善点や検討課題をまとめ、学校運営に活かしてまいります。是非ご覧ください。
19　学生・保護者の個人情報への配慮	よく当てはまる・だいたい当てはまるが90.8％でした。個人情報保護規定に基づき、個人情報保護をしており、ご理解いただいていると考えます。
20　消防訓練、防災マニュアル、緊急連絡網の作成と危機管理体制の整備	よく当てはまる・だいたい当てはまるが87.7％でした。近隣の駐在所や警察署からの情報提供をふまえ、学生に安全の確保を周知しております。また、今年度、災害時非難の際に頭部を保護する簡易ヘルメットを学生個々に配布しております。今後は災害時の帰宅困難の対応をふまえ、学校・学生の安全を第一に考えて参ります。
21　学生への進路に関する情報提供	よく当てはまる・だいたい当てはまるが89.2％でした。進路に関する情報は入職先からの卒業生の挨拶を掲示することや就職試験時の内容を記したファイルの提示、個別支援も行っており、ご理解いただいていると考えます。
22　学校から地域社会へ情報の発信	よく当てはまる・だいたい当てはまるが93.8％でした。今後はさらに学校ホームページを活用し、みな様に学校を知っていただく機会とし、内容を工夫して参ります。